

| | | | | | | | |
|---------|------------------|----|-------|------|---|-----|---|
| 学年 | 中学3年 | 教科 | 保健体育科 | 科目 | 保健 | 単位数 | 1 |
| 教科書名 | 最新中学校保健体育（大修館書店） | | | 副教材名 | 最新中学校保健体育教科書（大修館書店） 最新中学保健体育ノート（大修館書店） | | |
| クラス・コース | 中高一貫 | | | 担当者名 | | | |

I. 目標

体づくり運動、ダンスや野外活動などを含む広義のスポーツが、人々の生活や人生を豊かにするかけがえのない文化となっていること、また、そのような文化としてのスポーツが世界中に広まっていることによって、現代生活のなかで重要な役割を果たしていることなどについて理解できるようにする。

人間の健康は、主体と環境がかかわり合って成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するために、それにかかわる要因に対する適切な対策があることについて理解できるようにする。

II. 授業のねらい

中学3年の保健の授業は「けがの防止」「健康な生活と病気の予防」「健康と環境」をテーマに展開される。「けがの防止」では、適切な対策によってけがの多くは防止できること、また、応急手当はけがの悪化を防止することを学習する。「健康な生活と病気の予防」では、健康や病気の要因に関心を持ち、自分の生活を振り返ったりするなど学習活動に意欲的に取り組んだり、健康や病気の発生には1つの要因だけではなく、さまざまな要因が影響していることについて理解できるように授業を展開していく。「健康と環境」では、身体对环境に対する適応能力や飲料水や空気の衛生的管理について理解する。生活に伴う廃棄物の衛生的管理について理解し、健康を維持することの難しさ、重要性を実感しながら普段の生活を送れるように授業を展開していく。

III. 授業の進め方

単元ごとに参考資料を使って、相互に意見を出しながら実際の生活に生かせるよう授業をすすめる。

IV. 学習上の留意点

1. 板書はノートに書き写すこと。
2. 参考資料を配布した場合には、ノートに添付すること。
3. 口頭だけの内容も試験に出題する場合があるので、メモなどを書き入れる工夫をすること。

V. 定期試験

1. 学期ごとに定期試験を実施する。
2. 出題内容は、教科書、授業での板書や配布物（参考資料）から出題する。
 - 1 学期 期末試験：生活習慣病～自然災害によるけがの防止
 - 2 学期 期末試験：応急手当の意義と基本～医療品の正しい使い方
 - 3 学期 学年末試験：環境の変化への体の適応～私たちの生活と環境問題

VI. 評価の方法

1. 評価は定期考査の結果と、授業の取り組み、ノート（クラッシーノートも含む）などを評価する。

| | | | |
|--|---|--------------------------|--|
| | <p>6.心肺蘇生法の流れ</p> <p>7.心肺蘇生法</p> <p>8.止血法、包帯法、固定法</p> <p>保健⑤【感染症の予防と健康を守る】</p> <p>1.感染症と病原体</p> <p>2.感染症と体の抵抗力</p> <p>3.感染症の予防</p> <p>4.性感染症とその予防</p> <p>5.エイズとその予防</p> <p>6.保健機関とその利用</p> <p>7.医療機関とその利用</p> <p>8.医薬品の正しい使い方</p> | <p>2学期期末試験 ノート提出</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法の手順とやり方を理解する ・感染経路はさまざまであり現代では短期間に広がる危険を理解する。 ・性感染症は予防が可能であることを理解する。 ・エイズも予防できることと、その予防法を理解する。 ・医薬品は自然治癒力を助ける働きをすることを理解する。 ・地域には健康の保持増進、疾病予防の役割を担っているさまざまな機関があることを理解する。 |
| <p style="text-align: center;">三 学 期</p> | <p>1 保健⑥【環境の健康への影響】</p> <p>2 1.感染症の変化への体の適応</p> <p>3 2.気象情報の適切な利用</p> <p>3.快適で能率の良い環境</p> <p>4.室内の空気の汚染と換気</p> <p>5.衛生的な飲料水の供給</p> <p>6.し尿とごみの処理</p> <p>7.災害と環境</p> <p>8.私たちの生活と環境問題</p> | <p>3学期期末試験 なし</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること、身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあることを理解する。 ・快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解する。 ・飲料水や空気は、健康と密接な働きがあることを理解する。 ・飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があることを理解する。 ・人間の生活によって生じた廃棄物は、環境 |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解する。 |
|--|--|--|--|--|

※ シラバスの内容については、理解度やその他の都合により変更することもあります。